

中部教育事務所だより

発行所 群馬県教育委員会事務局
中部教育事務所
発行人 加藤 隆浩
発行日 令和8年2月18日
〒371-0051 前橋市上細井町2142-1
Tel.(027)232-6511

外国人児童生徒等教育充実のための研究協議会 〈伊勢崎市立広瀬小学校〉

11月25日(火)に開催を予定していた外国人児童生徒等教育充実のための研究協議会は、感染症拡大防止の観点から中止となりました。そこで、開催市及び会場校の指導・支援体制の一層の充実のため、改めて12月9日(火)に群馬県教育委員会義務教育課人権・キャリア教育推進係、伊勢崎市教育委員会、伊勢崎市教育研究所課題別自主研究班の方々が広瀬小学校を訪問し授業を参観しました。以下は、参観授業等の様子です。

〈日本語学級での取り出し指導の様子〉～2年国語「組み立てをを考えて、お話を書こう」～
ワークシートや教材の工夫により、児童が主語と述語に気を付けて文を作ったり、文の順番を考えて並び替えたりするなど、日本語に親しみながら一生懸命に取り組む姿が見られました。

〈授業者 菅野俊将 教諭より〉

日々の日本語指導や教科指導の中でとりわけ難しさを感じているのは、文の書き方の指導です。授業では、児童が「文作りカードセット」を教師とともに操作し、適切な格助詞を選びながら自身が書き表したい事柄を文にして書いていきました。手立てとして用いた「文作りカードセット」は、より効果的に活用する方法を今後も模索していこうと考えています。



参観者の感想より

- ・教師のポジティブな言葉掛けや称賛により児童が安心して学習に取り組む姿から、児童との信頼関係の大切さを感じた。
- ・外国籍児童生徒学校生活支援助手との連携により母語による支援を通して、物語のイメージを言葉にする様子が見られて参考になった。
- ・文を考えるための教材「文作りカードセット」や「文カード」が効果的に活用されていて参考になった。等

群馬県教育委員会指導主事による講評より

日本語指導が必要な児童生徒の取り出し指導は、在籍学級での学びを保障するため、必要最小限に留めたい。各学校において、外国にルーツを持つ児童生徒だけでなく、多様性を包摂する授業づくりが求められている。日本語教室で育まれた支援の工夫が在籍学級において取り入れられることを期待したい。

——— 広がっています！日本語指導 ～散在地域における取組～

中部教育事務所管内では、外国にルーツを持つ方々の集住地域と散在地域が存在し、各地域の状況に応じた取組をいただいています。今回は散在地域の取組から、県教育委員会による「日本語指導スーパーバイザー(JSV)の取組」、前橋市教育委員会による「日本語指導スタートアッププログラム(JSP)の取組」、渋川市教育委員会による「『外国人児童生徒等への学校生活支援 ぐんまのぐんぐんガイド～受入れ編・指導編～』を活用した巡回型日本語指導教員」等の取組を紹介させていただきます。※前橋市教育委員会より資料等の提供、渋川市教育委員会及び渋川市立伊香保小学校・渋川市立渋川北中学校より訪問取材(令和7年2月訪問)のご協力をいただきました。

【県教育委員会】日本語指導スーパーバイザー(JSV)の取組

日本語指導スーパーバイザー(JSV)の置籍校及び巡回校において、日本語指導を要する児童生徒に対し、入り込み、または取り出しによる直接指導を行っています。日本語指導を要する児童生徒の学級担任等に対し、個別の指導計画作成及び在籍学級における日本語指導等に係る助言を行うとともに、校内の指導体制づくりに努めています。

【前橋市教育委員会】日本語指導スタートアッププログラム(JSP)の取組

前橋市では、外国にルーツを持つ児童生徒がスムーズに学校生活を送るため、これまで行ってきた学校を巡回する日本語指導員による学校への巡回型日本語指導に加え、令和6年11月1日より初めて日本語を学ぶ児童生徒に対してのスタートアッププログラム(JSP)を実施することで日本語指導を充実させ、外国人児童生徒が円滑に学校生活を送れるよう支援の充実を図っています。詳細につきましては、右の二次元コードよりご覧ください。



専任の初期指導員及び日本語指導アシスタントが配置され、ゲーム等を通じてコミュニケーションを図り、生活習慣やマナー等の日本の文化や風習、学校生活の1日の流れや基本的なルール等を学ぶことができます。初期指導終了後は、学校への引継ぎを行い、巡回型指導を活用しながら学校で引き続き適応指導を行います。なお、保護者に対しても必要な情報提供をします。

【**渋川市教育委員会**】巡回型日本語指導教員及び在籍学校における取組

渋川市では、巡回型日本語指導教員が日本語指導を要する児童生徒に対し、「外国人児童生徒等への学校生活支援 くんまのくんぐんガイド～受入れ編・指導編～」(右の二次元コード参照)を活用しながら、在籍学級とは別の教室で個別に指導を行う「取り出し」指導や、日本語指導教員が在籍学級に行き指導を行う「入り込み」指導を行っています。



< **編入時の受入れ** >

- 事前に学校が保護者や子供と面談
- 聞き取りカード等を用いて配慮事項や緊急時の連絡先等、必要な情報を把握
- 学校生活について保護者への事前説明を通して家庭と連携

< **必要書類の作成及び初期指導の開始** >

- 面談内容や聞き取りシート等を参考に、授業や学校生活における様子を観察
- 日本語の習得状況に応じて速やかに特別の教育課程と個別の指導計画を作成
- 指導記録表の作成(指導事項、指導日、習得状況、指導者名等を記録)
- サバイバル日本語など初期指導を開始

聞き取りシート(編入時) (年 月 日 記入者)

姓 名	性別	学年	国籍	母国語
日本での居住地	家族	通学	通学手段	
親 戚	連絡先	転入理由	転入時期	

姓 名	性別	学年	母国語	文 化	習 得 状 況
指導事項	指導日	指導者	指導内容	指導結果	指導者

※サバイバル日本語：健康・安全・関係づくりなどの観点や教科や文房具、教室の備品名など、学校生活で日常的に使う言葉

< **取り出し指導・入り込み指導** >

- 取り出し指導：受入れ人数や学習内容によって、個別または複数名での指導
- 入り込み指導：学級担任や授業担当教諭と連携し、授業教室に入り込んでの指導
- ※可能な限り自分の力で学習に取り組めるよう、時には温かく見守りながら支援
- ※指導記録表をもとに指導内容を担任等に引き継ぐことで継続的な指導体制を構築

(3) 第一一覧・指導記録表

時 間	姓 名	指導事項(主な内容)	指導日	指導 指導者名
1 挨拶	「挨拶をする(おはようございます)」「ごきげんよう」「こんにちは」「さようなら」			
2 学校生活	「授業をする(よろしくお願ひします)」「ごめんなさい」「失礼します」 「おなまえ」「ごいせいのなまえ」 「おなまえを教えてください」 「おなまえを教えてください」			
3 数	「1から10まで数えられる」 「1から10まで数えられる」 「1から10まで数えられる」			
4 教室の	「教室の回りの物の名前がわかる」 「机、椅子、黒板、黒板、本、ノート」			
5 身近な人	「身近な人の名前がわかる」 「先生、友達、家族、お父さん、お母さん」			



子供たちの姿、先生方の思い等を紹介します ~訪問時(令和7年2月)の様子から~

【伊香保小学校】

外国から転入生が来ることを伝えると子供たちから「今度はどこの国(のお友達)?」と返ってきた。転入生紹介では、緊張で校長先生の足にしがみついた子供が、1か月後には教室で活発に過ごしている。来日直後は日本語の指示が伝わらなくても、周りを見てまねをしたりクラスの子供たちが身振り手振りを交えながらでコミュニケーションを図ろうとしたりしていた。大人が思っているよりも、子供たちの中では言語等のボーダーがない。時に教師は子供たちに活動を任せることで、子供たちは自然に関係を築いている。このような子供たちの持てる力を信じて伸ばしていきたい。

【渋川北中学校】

校長先生と個別に面談を重ねる中で自分の家族のことや興味があること、母国の親戚や友達のことを少しずつ話すようになった。そして、このような日々の関わりの中から見出された子供の天真爛漫さが学級や学校内にも広がっていくと、日常の様々な場面で言葉を掛けられるようになり、笑顔が増え安心して過ごせる居場所づくりの一助となった。

【巡回型日本語指導教員】

日々子供たちは日本語を習得し生活言語は大人も驚くほどに上達していく。一方、教科による専門用語のような学習言語は必ずしも生活言語のように習得しているとは限らない。来日後数年たち日常会話にはほぼ不自由がない状態であっても、学習面での支援を必要とする子供がいる。それを見取り、必要な時に必要な場面で支援できる環境が大切である。また、進学等に伴う支援の引継ぎ、継続や、子供本人にも保護者にも早い段階からの中学校卒業後の進路選択に関する情報提供も必要である。